

した。本当にありがとうございました。皆様には、感謝の気持ちをお伝えする適切な言葉が見つからない思いであります。

私は、港育成園が開設された平成元年4月に当時の大阪育成会に入職し、中学1年生からラグビーで鍛えた、持ち前の元気な身体だけを頼りに、諸先輩方の背中を見ながら、ただひたすらに、何とか追いつけるようにと歩んで参りました。気がつけば、はや34年の時間が経過し、法人の正職員の中で、最古参になってしまっていました。

今回の表彰は、私に与えられたものではなく、大阪府から大阪市育成会のみなさんに対していただいたものであること、私には、親の会や法人の皆さまから、温かい励ましをいただいたことであると理解し、今後大阪市育成会の名前を汚すことの無いよう、精一杯の努力を皆様にお誓いさせていただきます。

文末になりましたが、今回の表彰におきまして、大阪市福祉局坂田局長様、理事工藤様、障がい者施策部部長松村様、障がい福祉課長三浦様、港区役所山口区長様から、心のこもったお祝いの電報をいただきました。皆様ありがとうございました。



新年度を迎えて ～法人内各施設より～ その2

令和5年度を迎え、法人内の各事業所では管理者をはじめ人事異動がありました。4月号から引き続き、各事業所の管理者から就任のご挨拶をいただきました。※順不同(4月・5月に掲載)

福島育成園 施設入所支援

管理者 松本 源太郎



☆マイブーム(趣味や最近ハマっていること等)：サブスクでの映画鑑賞

福島育成園施設入所支援園長を拝命いたしました松本源太郎です。

昨年度は感染症の影響をまともに受けました。クラスターや職員等の感染による臨時体制が年間に何度も来るような感覚で、一種の災害のようなものでした。施設としては、それに対する気構えや耐性はついたかもしれませんが。

一方、生活や活動などの支援では、入所されている

利用者の皆さんのニーズを掘り下げました。入所の方と通所の方では平均年齢も違い、それに伴って重度化も進んでいきます。

今回の一連の環境調整により、利用者様のニーズに合ったものを提供していくという原点に立ち返ったように思えます。

何もかもが新たなスタートのようなもので、コロナ禍にあっても工夫しながら地道に行った支援などを土台にして、もう一度積み上げていきます。

例えてみれば、これまでが土を耕す期間であったなら、これからは種をまいて育てていく期間、花が咲いて実がなり、収穫するものがとても良いものであったならと願っています。

今年度もよろしくお祈りします。

福島育成園(通所部) 管理者 林 祥子



☆マイブーム(趣味や最近ハマっていること等)：ワインを片手にスポーツ観戦!

引き続き福島育成園の通所部管理者を拝命いたしました林祥子です。

一年の時の早さに驚きつつ、今年も野田藤を眺めています。

昨年度は、通入所を問わず、やはりコロナに翻弄された毎日だったように思います。特に、夏のクラスター発生時は、時間を問わず対応に追われ・・・気づけば秋の気配。大変ではありましたが、事後検証にいられたK I S A 2隊の【これを乗り越えたチームは強くなるはず!】という言葉に励まされ今に至ります。

さあ、待ちに待ったアフターコロナです。あんなこともこんなことも・・・我慢してきたことを少しずつ取り戻す時が来ました。マスクを外した利用者の皆さんの弾ける笑顔が待ち遠しい・・・もちろん、スタッフの笑顔も・・・コロナがあったからこそ学べたこと。習慣になったこと。それらを糧にして、利用者の皆さんに充実した毎日をご提供いただけるよう努めたいと思います。

また、新年度を迎えるにあたり、初めて福島に勤める職員とともに懐かしい顔も加わり、さらに頼もしさが増しました。この仕事はチームのチカラが大切です。世界一に輝いた侍 JAPAN に倣って、さまざまなキャリアをもつスタッフが個性を活かし、互いを自然にフォローしあえる【強い】チーム作りにも注力したいと考えています。